

総合臨床医学（ベーシック臨床実習）

ナンバリング

M5-S1-I01

責任者・コーディネーター	実践教育部門長		
担当講座・学科（分野）	ベーシック臨床実習担当講座・学科		
担 当 教 員	ベーシック臨床実習担当講座・学科教員		
対象学年	5 学年	期 間	通 年
区 分	講義・演習	時間数	臨床実習前演習 20 コマ 40 時間 4 年 340 コマ 680 時間 5 年 200 コマ 400 時間

■ 学習方針（講義概要等）

目の前の患者の医学的な問題の解決のために、自分の持っている医学的知識や社会的知識を有効かつ効率的に活用する訓練を行う。臨床実習で自らの課題を確認すると同時に、内科系の講義によって、臨床場面に則した知識の活用の仕方を体系的に学習する。

臨床実習前演習では、医師法の改正に伴い、Student Doctor に認定された医学生は指導医の監視のもと、患者に対し医行為を行うことが認められることとなった。本科目では、Student Doctor として必要な実務研修や医療倫理、人権及び医療法学、行動科学の学修を行う。この学修を通じて、ベーシック臨床実習やアドバンスト臨床実習及び地域医療実習において必要とされる、臨床現場での意思決定や医療倫理の実践的知識及び実務を修得することを目的とする。

■ 教育成果（アウトカム）

基礎医学、社会医学、臨床医学の知識を臨床場面に則した形で学修することにより、医学的な問題の解決のためにこれらの知識を活用する能力を身につける。臨床実習前演習では、各セッションでの講義と実習を行うことで、学習者が臨床現場に必要な背景知識を修得して実習に取り組むことができる。また、ベーシック臨床実習の後に行うアドバンスト臨床実習及び地域医療実習へシームレスに臨むことができる。

（ディプロマ・ポリシー：1、2、3、4、5、6、7）

■ 到達目標（SBO）

1. 医師として生命倫理に基づいて、患者の利益を最大化する科学的方策を提案できる。
2. 患者の問題解決のために必要な知識を収集できる。
3. 臨床推論に基づく適切な診断ができ、治療方針を提案できる。
4. 社会に出て適切な医療ができる基礎知識を有する。
5. 外来や病棟において、学生は Student Doctor として医療チームの一員となり、医療に携わる形の実習（いわゆるクリニカル・クラークシップ）を行う。これを通じて医療人としての責任を自覚できるようになる。

6. 医行為を通じて、患者さんや家族との対話あるいは医療チーム内での責任ある行動をとることで、患者・家族や他職種からの質問や助言に真摯に耳を傾けることができる姿勢を身につけることができる。
7. 指導医の指導のもとに侵襲性の高くない医行為を実施することで、臨床研修医あるいは研究医としての業務を行うために必要な臨床医学の技能・態度を修得する。
8. これまでに修得した知識を応用して、一般的な疾患の診断に必要な検査、鑑別診断、治療といった一連の思考過程を繰返すことにより、臨床研修医あるいは研究医としての業務を行うために必要な論理的思考力を身につける。
9. 実習で担当した患者さんの社会的背景や将来像を考えることで、社会正義と患者の福祉優先原則のもとに行動する倫理的態度を自分のものとするとともに、地域医療にあたる将来像を描くことができる。
10. 最新医学を駆使して患者さんに向き合う指導医に接することで、医療・医学の進歩に遅れることなく不断に学問を継続して最新かつ最善の知識と技能を修得し、後進の育成にあたる将来像を描くことができる。
11. 医療を行う際の安全確認の考え方を理解できる。
12. 臨床現場での医学英語を理解することができる。
13. 電子カルテの基本的な操作をすることができる。
14. 医療文書の書き方が理解できる。
15. 遺伝と医療倫理に基づいた医療の重要性について説明することができる。
16. 行動科学、行動医学に関する健康と疾病について説明することができる。
17. 臨床実務上で関わる法律について説明することができる。
18. 感染制御における標準予防策、感染対策、感染予防について説明できる。
19. 病状に合わせた栄養管理について説明できる。
20. 多職種連携、チーム医療の重要性について説明できる。
21. 臨床実習を行う附属病院の構造と機能を説明できる。

■講義日程

(各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについては web シラバスに掲載。ベーシック臨床実習は各講座のシラバスを参照)

<臨床実習前演習>

区分	月日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	10/26(月)	1	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療安全管理部門 プログラムの実施	1,8	【事前学修】 講義資料を事前に読み込んでくること。所要時間 40 分以上 【事後学修】 講義を受けた内容について 100 字程度でまとめること。 所要時間 40 分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/26(月)	2	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療安全管理部門 プログラムの実施	3,4	【事前学修】 講義資料を事前に読み込んでくること。所要時間 40 分以上 【事後学修】 講義を受けた内容について 100 字程度でまとめること。 所要時間 40 分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/26(月)	3	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療安全管理部門 プログラムの実施	7	【事前学修】 講義資料を事前に読み込んでくること。所要時間 40 分以上 【事後学修】 講義を受けた内容について 100 字程度でまとめること。 所要時間 40 分以上 【ICT】 WebClass

講義	10/26(月)	4	医療情報管理部	櫻庭 実 部長	電子カルテの概要 と注意事項について	10	【事前学修】 講義資料を事前に読み込んでくること。所要時間 40 分以上 【事後学修】 講義を受けた内容について 100 字程度でまとめること。 所要時間 40 分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/27(火)	1	人間科学科法学分野	廣瀬 清英 講師	臨床実習現場における医事法学について	1,7	【事前学修】 講義資料を事前に読み込んでくること。所要時間 40 分以上 【事後学修】 講義を受けた内容について 100 字程度でまとめること。 所要時間 40 分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/27(火)	2	医学教育学分野	高田 亮 教授	臨床実習に関わる職種と附属病院の構造について	10,11	【事前学修】 講義資料を事前に読み込んでくること。所要時間 40 分以上 【事後学修】 講義を受けた内容について 100 字程度でまとめること。 所要時間 40 分以上 【ICT】 WebClass
講義	10/28(水)	1	呼吸器内科分野	長島 広相 特任准教授	院内における感染対策について	5,6	【事前学修】 講義資料を事前に読み込んでくること。所要時間 40 分以上 【事後学修】 講義を受けた内容について 100 字程度で

							<p>まとめること。 所要時間 40 分以上 【ICT】 WebClass</p>
講義	10/28(水)	2	附属病院 NST 室	遠藤 龍人 室長	Student Doctor の ための栄養管理入 門	9	<p>【事前学修】 講義資料を事前に読 み込んでくること。所 要時間 40 分以上 【事後学修】 講義を受けた内容に ついて 100 字程度で まとめること。 所要時間 40 分以上 【ICT】 WebClass</p>
講義	10/29(木)	1	人間科学科心理 学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授 香川 由美 助教	臨床実習における 行動科学について	5,6,10	<p>【事前学修】 講義資料を事前に読 み込んでくること。所 要時間 40 分以上 【事後学修】 講義を受けた内容に ついて 100 字程度で まとめること。 所要時間 40 分以上 【ICT】 WebClass</p>
講義	10/29(木)	2	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	医療倫理に基づい た医療の重要性に ついて	5,6	<p>【事前学修】 講義資料を事前に読 み込んでくること。所 要時間 40 分以上 【事後学修】 講義を受けた内容に ついて 100 字程度で まとめること。 所要時間 40 分以上 【ICT】 WebClass</p>

講義	10/30(金)	1	看護部	佐藤 悦子 部長	チーム医療と看護 について	10	【事前学修】 講義資料を事前に読 み込んでくること。所 要時間 40分以上 【事後学修】 講義を受けた内容に ついて100字程度で まとめること。 所要時間 40分以上 【ICT】WebClass
講義	10/30(金)	2	外国語学科英語分 野	柳谷 千枝 子 准教授 レヴィン小倉 ジョナサン 助 教	臨床実習で使用す る医療英語の実践 について	2	【事前学修】 講義資料を事前に読 み込んでくること。所 要時間 40分以上 【事後学修】 講義を受けた内容に ついて100字程度で まとめること。 所要時間 40分以上 【ICT】WebClass
実習	10/27～ 10/30	3～ 4	医療情報管理部	櫻庭 実 部長	電子カルテの書き 方と操作方法につ いて	3,4	【事前学修】 講義資料を事前に読 み込んでくること。所 要時間 40分以上 【事後学修】 講義を受けた内容に ついて100字程度で まとめること。 所要時間 40分以上 【ICT】WebClass
実習	10/27～ 10/30	3～ 4	外科学講座 心臓血管外科学講 座 脳神経外科学講座 産婦人科学講座 泌尿器科学講座 麻酔学講座	各講座担当 者	病院内にける手術 着着用・手術場手 洗い実習	1,8	【事前学修】 講義資料を事前に読 み込んでくること。所 要時間 40分以上 【事後学修】 講義を受けた内容に ついて100字程度で

			呼吸器外科学講座 皮膚科学講座			まとめること。 所要時間 40 分以上 【ICT】 WebClass
--	--	--	--------------------	--	--	--

■教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	岩手医科大学附属病院ホームページ https://www.hosp.iwate-med.ac.jp/yahaba/			
参考書	実践 多職種連携教育	寺崎文生, 赤澤 千春, 駒澤伸泰	中外医学社	2020

■ 成績評価方法

<p>(総括評価)</p> <p>ア 中間試験及び総合試験 中間試験及び総合試験の合計得点率が、医学総論・医学各論は 62%以上並びに必修は 80%以上。</p> <p>イ 実地評価 60 点以上 実地評価（臨床実習）は、全ての実習終了時点で全科目を通じて 100 点満点に換算し、実習評価、態度、試験等により評価を行う。</p> <p>中間試験と総合試験は、必修と医学総論・医学各論で評価する。 医学総論・医学各論は、配点を一般問題、臨床実地問題ともに 1 点とし、中間試験及び総合試験の合計 400 点満点をもって評価する。必修は、配点を一般問題 1 点、臨床実地問題 3 点とし、中間試験及び総合試験の合計 440 点満点をもって評価する。</p> <p>(形成的評価) 臨床実習中に記録する e-ポートフォリオを基に、評価、フィードバックなどを行い、十</p>
--

分な知識と臨床能力の修得を促す。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1,2,3,4	1,2,3,4,5,6,7	40	0	0	60	0	0	100
合計		40	0	0	60	0	0	100

(合否基準)

合格：中間試験及び総合試験の合計得点率が、医学総論・医学各論は 62.0%以上並びに必修は 80.0%以上

不合格：上記以外の者

(再試験)

中間試験及び総合試験の合計得点率の、医学総論・医学各論および必修のいずれか又はすべての科目が合格基準に満たない者には、医学総論・医学各論 200 点、必修 200 点満点の再試験を行う。再試験の合格基準は、医学総論・医学各論 62.0%以上、必修 80.0%以上とし、この合格基準のいずれをも満たす者を合格とする。

■ 特記事項・その他

ベーシック臨床実習の実習内容、講義実施要綱および試験実施方法は別に定める。

シラバスに記載されている学修内容および到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

講義室・SGL・PC・スマートフォン・インターネット環境